

# よしぞうロードマップ

## ⑦広電本社

陸軍船舶司令部（曙部隊）は、原爆が投下された当日からこの建物を臨時司令部とし復興の拠点とした。義三は6日夜、この指揮所で武田大佐と初めて出会い宮本少尉とともに指示を受ける思い出深い場所である



## ⑧千田町

この地は一面が火災現場であった。義三たちは6日夜、この地で消火作業にあたる。



## ⑨袋町

ほとんど原型を無くした路面電車があった。義三が車両の中を見ると白骨だけが残っていた。車両の周りには、内臓までも焼け焦げて小さく縮んだ炭の塊だけの人間があった。



## ⑥御幸橋（みゆきばし）

京橋川に架けられた大きな橋。義三たちはこの橋を渡る。ここから情景が一変する。橋から広島市内を見れば、広島は真っ赤に燃え盛っていた。



## ⑤宇品三丁目

爆心地に向け徒歩で北上していた義三は、この地で路面電車が停車しているのを不審に思い車両の中を確認した。車両には大勢の被爆者が救援を待っていた。



## ④宇品棧橋（宇品港）

いったん江田島に戻った義三は、その日の夕刻、部下を引き連れて再び宇品棧橋に上陸し、徒歩で爆心地に向かう。この宇品港は、原爆投下後から負傷者の救援所になっていた。



## ③皆実町（みなみまち）

原爆が爆発した後、義三たちはすぐに広島城にある物資倉庫にトラックで向かうが、被爆者の群れに遭遇し前進できなくなる。やむなくこの地でUターンして宇品棧橋に向かう。現在この地には、ミュンヘンオリンピックのバレーボールで金メダルを取得した猫田選手の活躍を記念した「猫田記念体育館」がある。



## ②宇品西二丁目（寺跡）

義三が物資調達の命令を受け、江田島から上陸用舟艇でこの地へ上陸。寺跡でトラックを待っている時に原子爆弾に遭遇した。



## ①陸軍幸ノ浦基地跡

陸軍船舶特別幹部候補生の訓練施設があった船舶司令部第十教育隊幸ノ浦基地の跡地。義三はこの地で、マルシという木製の一人乗り特攻艇の厳しい訓練に励んでいた。



## ⑩紙屋町

爆心から300mほどの繁華街。路面電車が分岐する大きな交差点になっている。60年後に訪れた義三は、しばし瞑想に耽って交差点脇に佇んでいた。



## ⑪八丁堀

義三たちの最終目的地点。ここには爆心地を捜索するための指揮所が、廃墟となったデパートに設置されていた。



## ⑫流川（防火用水）

ながれかわ 義三たちは瓦礫の原を捜索した。瓦礫に埋もれた防火用水の桶の中には、目を疑う恐ろしいものが沈んでいた。



## ⑬三川（ビル跡）

みかわ 義三たちは殆ど外観だけを残したビルを捜索した。このビルの真っ暗な地下室で思わぬものを発見した。また、このビルで老婆と心温まるエピソードが展開する。



## ⑭元安川

広い河川は真っ赤になった死体で埋め尽くされていた。義三たちは死体の一体一体を担いで集積場に運び、重油をかけて焼却した。被爆地で最も傷ましい惨状がこの河川にあった。



## ⑮御幸橋手前

九日後、江田島に帰還することになった義三たちは、御幸橋の手前で男の子に呼び止められる。焼け跡のなかで17・8歳くらいの女性が足の痛みをこらえていた。



## A 海軍兵学校跡

世界三大兵学校の中のひとつである日本海軍の兵学校。秋山真之や山本五十六などの名将が育った学校でもある。建物や遺品などが当時のままで残っている。現在は海上自衛隊の幹部候補生学校となっており自由に見学ができる。

